

碧南市立鷺塚小学校

7月29日（木）、愛知教育大学准教授、蜂須賀渉先生をお招きして「〇つけ法・復唱法の基礎理論」「〇つけ法・復唱法の実技演習」について、ご指導をいただきました。



まず、〇つけ法・復唱法の基礎理論についてお話を伺った後、実際に10人一組になり、〇つけ法実技演習を行いました。どの先生も一人一人にさまざまなほめ言葉と言葉がけを工夫しながら実技演習することができました。先生方の個性がよく出ており和やかな雰囲気で行うことができたと思います。実技演習後、自分の言葉がけを振り返ることで、特長や癖を客観的に見直すことができ、他の先生の言葉がけを参考にし、自己のほめ言葉や言葉がけのバリエーションを増やすことができました。また、児童役をやることで、〇をもらった時や名前をよんでもらったり、ほめてもらったりした時の嬉しさを味わうことができ、児童の目線に立って授業を見つめることができました。先生方からは「この気持ちを忘れず授業に生かしたい」との声が聞かれました。

＜〇つけ法のポイント＞

- ① スピードが大切（2～3分で1クラスを回るスピードがほしい。回り方を決めておくと時間短縮につながる。できていない子でも15秒まで。）
- ② 声かけ（感嘆のことばが効果的。正答でも一声かける。教材研究を事前にしておかないと効果的な声かけができない。とにかく褒めることが大切。あくまでもできるようになるための支援でありたい。）
- ③ 実態把握（半分以上できていなかったら、一斉授業に切り替える。どこにつまずいているか。…適切な声かけが必要。）

④ 正確さ（誤答の子にはあっている所を褒めてから考えさせる。）

次に意味づけ復唱法について、やはり実技演習を行いながらご指導いただきました。「なるほど、〇〇と考えたんだね。」「今、いいこといったね」「もう一回言ってごらん」「それってどういうこと？」等の言葉で子どもの発言を切り返すことで、受容・価値付け・教師児童の復唱・広げる・深める・整理する、授業展開ができることを知ることができました。